

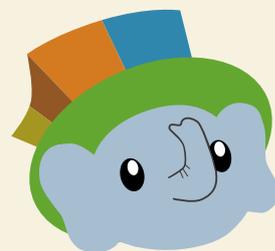
May.

2020/05/26

No.48-03号

KG KEISOKU GIKEN

NEWS LETTER



段々気温が高くなり、マスクをしていると熱が籠る時期になってきましたね。皆様いかがお過ごしでしょうか。

昨今の状況で、以前と環境や考えが変わった方、沢山いらっしゃると思います。私もその1人で、世界情勢から本国の政策から会社の施策に至るまで、よりマクロ的、ミクロ的なことを意識して考えるようになりました。一つ確信しているのは、以前と同じ環境は戻ってきません。待っているのは新しい環境のみですので、自分の軸だけは忘れずに、ブレずに生きていきたいと思ひます。

さて、今回は新製品のご案内と、弊社の耐電圧試験器を利用した試験方法のご紹介です。最後までどうぞお付き合いください。

担当：西條 昶

NEW

低コストを実現!回生型直流電子負荷10kW販売開始!

回生型直流電子負荷「NT-AD-10KG-L」は5種の基本負荷モード(CC/CR/CV/CP/MPPT)を装備し、最大680Vの入力に対応します。機能は交直両用モデルと同等ながら、直流専用にしたことでコストを抑えました。

内蔵のMPPTモードにより、PV(太陽光パネル)の試験がこの電子負荷のみで実施可能となります。



▶ 詳しくはこちら

Pick up

半導体・絶縁材料評価試験方法(JISC2110)のご紹介!

超高電圧耐圧試験器(耐圧試験)「7470シリーズ」を使ったホットなアプリケーション試験を紹介いたします。

▶ 詳しくはこちら

試験方法	短時間(急速昇圧)試験	20秒段階昇圧試験 (60秒段階昇圧試験)	低速昇圧試験120~240秒 (超低速昇圧試験300~600秒)
試験内容 (JISC2110より抜粋)	一般的に10~20秒で絶縁破壊が起こるよう昇圧速度を選択し電圧を印加する試験です。昇圧速度は、100V/s、200V/s、500V/s、1000V/s、2000V/s、5000V/sから選択します。多くの種類の材料に対して、一般的に用いられる電圧昇圧速度は、500V/sとなります。ただし成型材料に関しては、IEC60296とのデータ比較可能な測定値を得る為に、2000V/sの電圧上昇速度を推奨されております。	短時間試験から予想される絶縁破壊電圧の40%を印加し、この電圧で20秒(60秒)加えても破壊しなければ、規定の段階電圧に従い、順次20秒(60秒)ずつ高い電圧を加え破壊するまで続ける試験です。絶縁破壊の強さは20秒に耐えた最も高い電圧に基づいて決定されます。	予想される絶縁破壊電圧の40%から一定速度で昇圧する試験です。昇圧開始後120~240秒(300~600秒)の間に絶縁破壊が起こるように昇圧速度を選択します。昇圧速度は1V/s、5V/s、10V/s、20V/s、50V/s、100V/s、500V/s、1000V/sから選択します。
上記試験を7470 Seriesで行った場合	<p>7470 Seriesで標準対応</p>	<p>Opt. 7011/Opt. 7012連続印加オプションを追加することで対応可能</p>	

株式会社 計測技術研究所



パワエレ事業部 営業部

E-mail: PWsales@hq.keisoku.co.jp <https://www.keisoku.co.jp/pw/>

本ニュースレターは、当社製品ユーザー様ならびに展示会にて当社ブースへご来場頂いたお客様を中心に配信しております。配信解除をご希望の場合は、お手数ですが当社/パワエレ事業部 営業部(PWsales@hq.keisoku.co.jp)までご連絡頂けますようお願い致します。

日吉事業所

〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬4-11-1
TEL 044-223-7950 FAX 044-223-7960

大阪オフィス

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町15-11 江坂石周ビル4F
TEL 06-6387-1039

名古屋オフィス

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-17-13 NK丸の内ビル3階
TEL 052-203-0658

発行日 2020/05/26